

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2011年2月4日

1. 概要

実践団体名	愛知県立日進高等学校		
連絡先	0561-73-6221		
プランタイトル	高校生による洪水ハザードジオラマ作成と天白川源流地域の防災力向上		
プランの対象者	実施者：5 高校生、8 教職員・保育士等 交流相手：1 幼児・保育園児・幼稚園児、2 小学生（低学年）、5 高校生、6 大学生、10 地域住民、11 社会人・一般、15 高齢者、17 防災関係者	対象とする災害種別	1 地震、3 水害

【プランの目的・ここがポイント！】

愛知県は今年度、東海豪雨（H12. 9/11～12にかけて、愛知県を中心に東海地方の広範囲にわたって大きな被害をもたらした豪雨災害）から10年目を迎えた。東海豪雨以降も、スーパー台風の襲来、あるいはゲリラ豪雨が各地で発生している。そのため、地震のみならず水害に対する取り組みも重要と考え、今年度は地震に加えて、水害に関する防災教育に取り組むこととした。本校は、しばしば氾濫する天白川の源流地域であることから、源流地域の特性を生かした取り組みを実践した。

【プランの概要】

生徒が約3ヶ月かけて、授業で日進市の洪水ハザードジオラマ（2.2m×1.05m）と防災3Dマップ（1.05m×1.05m）を作成した。また、オリジナル洪水ハザード紙芝居を作成し、保育園と小学校へ読み聞かせに行った。8月には地域住民を学校に招いて、洪水ハザードワークショップを開催した。三日間の集中豪雨の後、東海地震が発生したという想定で、地域住民と共にDIG（地図上避難訓練）を体験したり、パソコンを活用したバーチャル地震体験などを行った。また、本校は天白川の源流地域であるため、クリーンウォーキングをとおして、源流域の川を浄化することは、川の保水力を高め、洪水の予防になることを学んだり、様々な地域の川を守るボランティア団体と交流を深めた。同様に、源流域の水田の保護は、洪水防止に有効であることを体感するため、小学生や国際ナショナルスクールの児童と共に、田植えや稲刈りを体験した。さらに、防災教育ゆるキャラ「洪水ミハルちゃん」を作成し、PRに役立てた。年明けには、洪水募金活動や普段はベンチだが災害時にはトイレになる「雪隠便置（せっちんべんち）」の制作等に取り組んでいる。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

（1）防災スキルの習得：これまで取り組んできた地震防災教育に加え、洪水防災の知識やスキルを習得できる。（2）地域との信頼関係の確立：防災教育をとおした地域社会との関わりにより、学校と地域の間に信頼関係が生まれる。（3）自己肯定感の高揚：地域に役立つことを実感し、生徒の自己肯定感が高まる。（4）コミュニケーション能力の向上：様々な年代の人と関わることにより、生徒のコミュニケーション能力が高まる。（5）本校のイメージの向上：防災教育の実践が報道等で紹介され、本校の教育活動が地域に理解されてイメージアップに繋がる。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2010年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 日進市立図書館に、高校生が18名利用することを事前連絡 日進市役所防災室にハザードジオラマを制作することを連絡 教科担任と授業計画を練る 日進市教育委員会及び日進市立西小学校と田植え日程調整 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が事前に図書館で、図書文献の調査 日進市役所防災室で日進市ハザードマップを入手 日進市の国土地理院の地図を購入 授業案を作成 ジオラマ、紙芝居制作材料の準備 	<ul style="list-style-type: none"> H22.4.23:授業において日進市立図書館で水害について調査学習 H22.4.30～6.25:大型洪水ハザード紙芝居(1.2m×0.85m)制作 H22.4.30～9.3:日進市の洪水ハザードジオラマ(1.05m×1.05m)及び日進市防災3Dマップ(2.2m×1.05m)制作
2010年 5月	<ul style="list-style-type: none"> 日進市立三本木保育園及び日進市立東小学校と日程調整 	<ul style="list-style-type: none"> 日進市の国土地理院の地図を大量に拡大複写 ジオラマ、紙芝居制作材料の準備 	<ul style="list-style-type: none"> H22.4.30～6.25:大型洪水ハザード紙芝居(1.2m×0.85m)制作 H22.4.30～9.3:日進市の洪水ハザードジオラマ(1.05m×1.05m)及び日進市防災3Dマップ(2.2m×1.05m)制作 H22.5.28:水田保護の洪水防止効果理解のため日進市立西小学校及びインターナショナルスクールの児童と田植え体験
2010年 6月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回・第2回クリーンウォーキング実施について、日進市役所、三本木川を守る会、ライオンズクラブ、ラブ日進等と日程調整 ハザードワークショップ講師と日程調整 		<ul style="list-style-type: none"> H22.4.30～6.25:大型洪水ハザード紙芝居(1.2m×0.85m)制作 H22.4.30～9.3:日進市の洪水ハザードジオラマ(1.05m×1.05m)及び日進市防災3Dマップ(2.2m×1.05m)制作 「ぼうさいサンパ」CD希望校に配布
2010年 7月	<ul style="list-style-type: none"> ハザードワークショップ参加部活動生徒の役割分担調整 ハザードワークショップ参加地域住民に案内配布 文化祭参加申し込み 	<ul style="list-style-type: none"> ハザードワークショップ講師と事前打ち合わせ ハザードワークショップ当日資料作成 ハザードワークショップ参加ボランティア生徒募集 クリーンウォーキングの長靴、軍手等準備 文化祭ピーアール文提出 	<ul style="list-style-type: none"> H22.4.30～9.3:日進市の洪水ハザードジオラマ(1.05m×1.05m)及び日進市防災3Dマップ(2.2m×1.05m)制作 H22.7.9:日進市立三本木保育園へ「洪水ハザード紙芝居読み聞かせ」の出前防災教育 H22.7.10:第1回三本木川クリーンウォーキング H22.7.16:日進市立東小学校へ「紙芝居読み聞かせ」の出前防災教育

防 災 教 育 ち ゃ れ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

2010年 8月	<ul style="list-style-type: none"> 第3回クリーンウォーキング実施について、日進市役所、源流の会等と日程調整 	<ul style="list-style-type: none"> 洪水ハザードワークショップ炊き出し材料準備 クリーンウォーキングの長靴、軍手等準備 	<ul style="list-style-type: none"> H22.8.5: 地域住民等 70 名参加の洪水ハザードワークショップ開催 H22.8.21: 第2回天白川クリーンウォーキング
2010年 9月	<ul style="list-style-type: none"> 日進市教育委員会・日進市立西小学校と稲刈り日程調整 第3回クリーンウォーキング洪水講演会講師と講演内容の打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭で洪水ハザード啓発展示会場準備 	<ul style="list-style-type: none"> H22.4.30～9.3: 日進市の洪水ハザードジオラマ (1.05m×1.05m) 及び日進市防災3Dマップ (2.2m×1.05m) 制作 H22.9.21: 文化祭で洪水ハザード啓発展示会開催
2010年 10月		<ul style="list-style-type: none"> 日本のゆるキャラ検索・研究 稲刈り準備 (鎌、軍手等) 洪水講演会会場準備 	<ul style="list-style-type: none"> H22.10.1: 防災教育ゆるキャラ制作 H22.10.6: 日進市立西小学校及びインターナショナルスクールの児童と稲刈り体験 H22.10.9: 第3回岩崎川クリーンウォーキング (洪水講演会)
2010年 11月			<ul style="list-style-type: none"> H22.11.14: 「にっしん市民まつり」で洪水ハザードジオラマ及び防災3Dマップ展示
2010年 12月		<ul style="list-style-type: none"> 図書館にジオラマ移動、展示 子ども防災交流会参加申し込み 「ぼうさい甲子園」発表会パワーポイント作成・プレゼンリハーサル 	<ul style="list-style-type: none"> H22.11.14～H23.2.25: 図書館で洪水ハザードジオラマ及び防災3Dマップ展示
2011年 1月			<ul style="list-style-type: none"> H22.11.14～H23.2.25: 図書館で洪水ハザードジオラマ及び防災3Dマップ展示 H23.1.8: 災害メモリアルKOB E2011参加 H23.1.8: 子ども防災交流会参加 H23.1.9: ぼうさい甲子園表彰式・発表会参加 H23.1.11～2.10: 雪隠便置制作
2011年 2月			<ul style="list-style-type: none"> H23.1.11～2.10: 雪隠便置制作 H22.11.14～2.25: 図書館で洪水ハザードジオラマ及び防災3Dマップ展示 H23.2.8 (火): 防災募金活動 H23.2.21 (月): 洪水救急法

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	水害について調査学習
実施月日（曜日）	H22. 4. 23（金）
実施場所	日進市立図書館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教科担任、図書部、保健部 氏 名：西尾弘和、富田みよ子、岡本洋、外山恵子 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、実習教員、主任養護 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間40分「2コマ×50分」
プログラムのカテゴリ、形式	9校外学習・移動教室
活動目的	6学級活動
達成目標	洪水ハザードジオラマ及び洪水紙芝居制作
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	全員が、日進市立図書館の貸し出しカードを作成する。その後、各自図書館で洪水関連文献を検索し、一人5冊の本を借りる。返却は、後日教員が一括で行った。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	図書館貸し出しカード作成書類、本校の図書館の実習教諭参加
参加人数	22人
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】全員が日進市立図書館の貸し出しカードを作成し、洪水に関する文献を借りて読んだ。 【課題】学校から離れているため、バスで移動した。時間と交通費が各自かかった。
成果物	日進市洪水ハザードジオラマ、日進市防災3Dマップ及び洪水紙芝居

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム②】

タイトル	日進市洪水ハザードジオラマ及び日進市防災3Dマップ制作
実施月日（曜日）	H22.4.30（金）～9.3（金）
実施場所	経営保育室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教科担任、保健部 氏 名：西尾弘和、富田みよ子、外山恵子 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、主任養護教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	10時間、「12コマ×50分」
プログラムのカテゴリ、形式	5教科学習
活動目的	2防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	洪水ハザードジオラマ制作
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	教科担任の指導のもと、日進市洪水ハザードジオラマ（1.05m×1.05m）と日進市防災3Dマップ（2.2m×1.05m）ジオラマを二つ制作する。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	日進市国土地理院2500/1地図、日進市洪水ハザードマップ、日進市防災マップ、段ボール、複写機、ハサミ、ボンド、絵の具、筆、油性ペン、クリアボード等
参加人数	9人
経費の総額・内訳概要	38,804円・地図、段ボール、ビー紙、ボンド、絵の具、筆等
成果と課題	【成果】日進市洪水ハザードジオラマと防災3Dマップを制作。 【課題】成果物の来年度以降の活用について。
成果物	日進市洪水ハザードジオラマ（1.05m×1.05m）、日進市防災3Dマップ（2.2m×1.05m）

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム③】

タイトル	大型洪水ハザード紙芝居（1.2m×0.85m）制作
実施月日（曜日）	H22.4.30（金）～6.25（金）
実施場所	経営保育室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教科担任、保健部 氏 名：西尾弘和、富田みよ子、外山恵子 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、主任養護教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	8時間20分、「10コマ×50分」
プログラムのカテゴリ、形式	5教科学習
活動目的	2防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	大型洪水ハザード紙芝居（1.2m×0.85m）を制作
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	教科担任の指導のもと、自分たちで洪水をテーマにした物語を作る。紙芝居に登場する地名は、日進市の実在するものとし、登場する動物たちは、日進市の里山に生息する動物とした。それら日進市の調査の後、絵を描き、大型紙芝居を制作する。紙芝居が完成したら、読み聞かせの練習をし、出前教育を行った。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	段ボール、ビー紙、絵の具、筆、ボンド、ハサミ
参加人数	9人
経費の総額・内訳概要	約5,000円、段ボール、ビー紙、ボンド、絵の具、筆等
成果と課題	【成果】オリジナル大型洪水ハザード紙芝居の制作。 【課題】保育園児、小学校低学年用の紙芝居を制作したが、今後は高学年用の検討する。
成果物	大型洪水ハザード紙芝居（1.2m×0.85m）

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム④】

タイトル	大型洪水ハザード紙芝居の読み聞かせ出前防災教育
実施月日（曜日）	H22.7. 9（金）、H22.7.16（金）
実施場所	日進市立三本木保育園、日進市立東小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教科担任、図書部、保健部 氏 名：西尾弘和、富田みよ子、岡本洋、外山恵子 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、実習教員、主任養護 教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	3時間20分、「4コマ×50分」
プログラムの カテゴリ、形式	11 出前授業
活動目的	1 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	大型洪水ハザード紙芝居の読み聞かせ
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	紙芝居を出し入れする係、登場人物やナレーターなどを各自分担して、幼児や児童が関心をもって、学習してもらえるよう、読み聞かせを行った。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	自作の大型洪水ハザード紙芝居、絵本
参加人数	18人
経費の総額・内訳概要	約5,000円、段ボール、ビー紙、ボンド、絵の具、筆等
成果と課題	【成果】幼児や児童が、紙芝居に集中して見ていた。 【課題】2時間の授業を利用して行うため、行きと帰りの時間がかかり、実際に交流する時間が限られてくる。
成果物	大型洪水ハザード紙芝居

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑤】

タイトル	源流域クリーンウォーキング
実施月日（曜日）	H22. 7. 10（土）、H22. 8. 21（土）、H22. 10. 9（土）
実施場所	三本木川、天白川、岩崎川
担当者または講師	担当者・講師等の区分：保健部、特活部 氏 名：西尾弘和、柴田智宏、小山美弥子、朝羽はるみ、外山恵子 星川智之 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、主任養護教諭、校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	6時間、「6コマ×60分」
プログラムのカテゴリ、形式	13 体験学習
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	川の源流域を清掃及び生態調査
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	川の源流域を上流から下流に向かって、ゴミ拾いなどの清掃をしながら歩く。その際、清掃だけでなく、川の生態調査や水害の講演会等を実施した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	長靴、軍手、ゴミ袋等
参加人数	80 人程度
経費の総額・内訳概要	14,968 円・長靴、交通費
成果と課題	【成果】川がきれいになった。川の生態調査により、水質や外来種の発生状況がわかった。また、地域の人や川を守る団体の方々と交流できた。 【課題】学校の休日に実施するため、参加できる生徒の数が限定される。
成果物	川の浄化による洪水予防

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑥】

タイトル	田植え及び稲刈り体験
実施月日（曜日）	H22. 5. 28（金）、H22. 10. 6（水）
実施場所	日進市内水田
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教科担任、図書部、保健部 氏 名：西尾弘和、富田みよ子、岡本洋、外山恵子 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、実習教員、主任養護 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	5時間50分、「7コマ×50分」
プログラムのカテゴリ、形式	13 体験学習
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	田植え及び稲刈り
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	異年齢の児童と共に、田植えや稲刈りを体験する。また、その後給食を共に食し、食についても考えた。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	鎌、軍手、藁等
参加人数	90人程度
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】小学生やインターナショナルスクールの児童と共に、田植えや稲刈り体験を通して、源流域で水田を保護することは、川の保水力を高めて、洪水の防止に繋がることを体感した。 【課題】水田が学校から遠かったため、交通手段に苦労した。
成果物	米、水田の保護による洪水の予防

防 災 教 育 ち ゃ れ ン じ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑦】

タイトル	洪水ハザードワークショップ
実施月日（曜日）	H22. 8. 5（木）
実施場所	愛知県立日進高等学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：保健部、図書部、総務部、家庭部 講師：防災リーダー会 氏 名：西尾弘和、柴田智宏、外山恵子、富田みよ子、岡本洋、濱松友子、浅野恵、折笠義則、星川智之 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、実習教員、主任養護教諭、教頭、校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	7時間、「7コマ×60分」
プログラムのカテゴリ、形式	2講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	4 災害を想定した訓練、5 災害を疑似体験
達成目標	D I G（地図上避難訓練）、パソコンによるバーチャル災害体験
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	家庭部の生徒の炊き出しを食べながら、防災リーダー会の方の講演を聴くランチョンセミナーの後、三日間の集中豪雨の後、東海地震が発生したという想定で、地域住民と共にD I Gを体験した。その後、パソコンを活用し、バーチャル地震体験などを行った。
準備、使用したもの・人材 ・道具、材料等	日進市の地図、パソコン、プロジェクター、付箋、水性マジック、ビー紙、透明ビニールクロス、炊き出し食材
参加人数	70人
経費の総額・内訳概要	27,912円・講師謝金、炊き出し食材、箸、お茶、おにぎり
成果と課題	【成果】D I Gやバーチャル地震体験等を、地域の方と共に体験することで、住民との間に一層の災害への危機意識や連帯感が生まれた。 【課題】今回はバーチャル体験であったが、実際の訓練を地域住民と共に実施することも検討したい。
成果物	各グループの作成したD I G

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑧】

タイトル	文化祭洪水ハザード啓発展示
実施月日（曜日）	H22. 9. 21（火）
実施場所	経営保育室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教科担任、図書部、保健部 氏 名：西尾弘和、富田みよ子、岡本洋、外山恵子 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、実習教員、主任養護 教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	7時間、「7コマ×60分」
プログラムの カテゴリ、形式	1 イベント・行事
活動目的	6 防災に関する知識を深める
達成目標	文化祭において、1 学期授業で学んだ洪水の知識やジオラマ、紙芝居などの成果物を展示し、全校生徒に見て学んでもらう。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	大型紙芝居やジオラマ、防災絵本、D I G等を生徒や保護者が感心をもつように展示した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ビー紙、段ボール、絵の具、油性マジック、ガムテープ、セロテープ、厚紙、色紙等
参加人数	実施者：22人、交流相手：全校生徒及び保護者
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】全校生徒や保護者に展示を見てもらい、防災知識を深めてもらった。 【課題】展示物のその後の活用方法。
成果物	ジオラマ、大型紙芝居、絵本、D I G等

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑨】

タイトル	洪水講演会
実施月日（曜日）	H22.10.9（土）
実施場所	日進市岩崎公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：保健部 講師：源流の会 氏 名：西尾弘和、柴田智宏、外山恵子、星川智之 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、主任養護教諭、校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間、「2コマ×60分」
プログラムのカテゴリ、形式	3講演会・シンポジウム
活動目的	6防災に関する知識を深める
達成目標	過去の大水害から学ぶ
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	パワーポイント及び写真パネルを活用し、「スーパー伊勢湾台風」の講話を実施。伊勢湾台風の体験者による当時の様子などを盛り込んだ、興味深い感動的な講演会だった。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	プロジェクター、コードリール、講師の飲み物
参加人数	33人
経費の総額・内訳概要	250円・講師のお茶、紙コップ
成果と課題	【成果】過去の被害から、被害時に高校生が行うべきことなどを学んだ。 【課題】今後も過去の災害の体験者による講話を継続していきたいが、体験者を捜すことが困難である。
成果物	過去の被害からの学び

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑩】

タイトル	「にっしん市民まつり」洪水ハザードジオラマ及び防災3Dマップ 展示
実施月日（曜日）	H22.11.14（日）
実施場所	日進市役所駐車場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：保健部 氏 名：柴田智宏、中村純子、外山恵子、星川智之 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、主任養護教諭、校長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	9時間、「9コマ×60分」
プログラムの カテゴリ、形式	1 イベント・行事
活動目的	8 防災意識を高める
達成目標	にっしん市民まつりでのジオラマ展示
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	日進高校専用ブースを、日進市防災室の隣に設けていただき、ジオラマを展示したり、本校防災教育ゆるキャラ「洪水ミハルちゃん」もピーアールに参加させたりしながら、市民に防災を呼びかけた。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	机、椅子、のぼり、ジオラマ、洪水ミハルちゃん
参加人数	7人
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】多くの市民が、日進高校ブースに立ち寄り、ジオラマで自宅や近隣の学校の浸水状況を確認し、一喜一憂していた。 【課題】来年も「にっしん市民まつり」に参加し、本校の防災教育で培った知識や情報を、市民の皆様に提供したい。
成果物	日進市洪水ハザードジオラマ（1.05m×1.05m）、日進市防災3Dマップ（2.2m×1.05m）、洪水ミハルちゃん

防 災 教 育 ち ゃ れ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑪】

タイトル	防災教育ゆるキャラ制作
実施月日（曜日）	H22. 10. 1（金）～H22. 12. 22（水）
実施場所	美術室、被服室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：美術部、家庭部、保健部、図書部 氏 名：小栗未有希、富田みよ子、西尾弘和、岡本洋、外山恵子 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、実習教員、主任養護 教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	9時間、「9コマ×60分」
プログラムの カテゴリ、形式	1 イベント・行事
活動目的	1 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	防災教育ゆるキャラの制作
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	生徒から防災教育ゆるキャラのデザインを募集し、情報と美術の 教諭監修でパソコンによる2D化をした。その後、保健部職員で3 D化し、「にしん市民まつり」に参加した。市民の反応を参考に、 美術部を中心に顔部分を制作し直した。その後も職員や他の人の意 見を参考にし、再度顔部分及び衣装を制作し直した。「ぼうさい甲子 園」に参加した際は、好評だった。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	風船、新聞紙、綿、タオル、針金、布、パトライト
参加人数	10人
経費の総額・内訳概要	約20,000円・ボンド、パトライト、布、便座カバー、テープ等
成果と課題	【成果】防災教育のピーアールに役立った。 【課題】地震防災も行っているため、地震防災のゆるキャラもあつ た方が良いという要望がある。
成果物	防災教育ゆるキャラ、土のうの妖精「洪水ミハルちゃん」

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑫】

タイトル	図書館洪水ハザードジオラマ及び防災3Dマップ展示
実施月日（曜日）	H22.12.1（金）～H23.2.25（金）
実施場所	日進高校図書館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：図書部、保健部 氏 名：富田みよ子、小畑陽子、西尾弘和、岡本洋、外山恵子 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、実習教員、主任養護教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	100時間、「100コマ×60分」
プログラムのカテゴリ、形式	8 その他学校内での時間
活動目的	8 防災意識を高める
達成目標	図書館にジオラマ展示
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	図書館を利用する生徒や教員に、洪水ハザードマップを見てもらう。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	机、テーブルクロス
参加人数	実施者3人、交流相手：全校生徒及び保護者
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 図書館を利用した多くの人が、ハザードマップを見学し、洪水災害に関心を持った。 【課題】 洪水関連の本も数多く展示貸し出しできると良かった。本校に関連図書がなく、新たに購入する予算もなかった。
成果物	日進市洪水ハザードジオラマ（1.05m×1.05m）、日進市防災3Dマップ（2.2m×1.05m）

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑬】

タイトル	防災募金活動
実施月日（曜日）	H23. 2. 8（火）
実施場所	名鉄米野木駅構内（日進市）及び校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：保健部、特活部 氏 名：西尾弘和、柴田智宏、外山恵子、地域の方 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、主任養護教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間、「2コマ×60分」
プログラムのカテゴリ、形式	1 イベント・行事
活動目的	10 その他
達成目標	募金活動及び寄付
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	学校から最寄りの鉄道駅構内で、ボランティア生徒と地域の方で洪水募金活動を行う。また、校内においても保健委員が各ホームルームで募金活動を行う。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	募金箱、のぼり、洪水ミハルちゃん
参加人数	51人
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】募金をとおして、集まったお金を岐阜県可児市役所防災安全課に寄付する（H22 岐阜県可児市の洪水土砂災害に対して）。 【課題】実施時間が 15:50～17:30 ごろなので、帰宅時間には若干早いため、人通りが少ないことが予測される。しかし、他の時間帯での実施は難しい。
成果物	義援金

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑭】

タイトル	雪隠便置 ^{せっちんべんち} 制作
実施月日（曜日）	H23. 1. 11（火）～2. 25（金）
実施場所	校庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分：保健部、図書部 氏 名：西尾弘和、岡本洋、外山恵子 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、実習教員、主任養護教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	28 時間、「28 コマ×60 分」
プログラムのカテゴリ、形式	8 その他学校内での時間
活動目的	2 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	普段はベンチだが、災害時にはトイレになる「雪隠便置 ^{せっちんべんち} 」の制作
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	授業後、ボランティア生徒及び職員で制作
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	原木、角材、木製便座、木製トイレトーパーホルダー、バケツ、ビニール袋、ワンタッチテント
参加人数	5 人
経費の総額・内訳概要	約 20,000 円・角材、テント、便座、トイレトーパーホルダー等
成果と課題	【成果】 災害時に水がとまり、トイレが使用できなくなった際に役立つことが予測される。普段は、ベンチとして生徒に活用される。 【課題】 1 個では不足。
成果物	雪隠便置 ^{せっちんべんち}

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑮】

タイトル	洪水救急法
実施月日（曜日）	H23. 2. 21（月）
実施場所	武道場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：安全衛生委員会、講師：尾三消防署消防士 氏 名：西尾弘和、外山恵子他 所属・役職等：愛知県立日進高等学校 教諭、主任養護教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1時間、「1コマ×60分」
プログラムの カテゴリ、形式	2講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	4災害を想定した訓練
達成目標	洪水時の救急法の習得
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	尾三消防署の消防士により、蘇生人形、AED（除細動器）の使用を含む心肺蘇生法及び洪水時の救急法の訓練を行う。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	蘇生人形、訓練用AED（除細動器）、三角巾、
参加人数	15人
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】AEDの使い方、心肺蘇生法、水害時の救急法の習得。 【課題】他の職務の関係上、全員参加が難しい。
成果物	AEDの使い方、心肺蘇生法、水害時の救急法のスキルの習得

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>本校は、6年間防災教育の取り組みを継続実施してきた。その取り組み内容は、同じものはない。毎年、違うテーマを決めて、様々な取り組みに挑戦してきた。</p> <p>過去5年間は、地震防災に取り組んできたが、今年度は水害に焦点を当てた取り組みである。初めての分野での取り組みで、一から学ぶ必要があったこと、また水害分野でのネットワークがなかったため、ネットワークの構築から始める必要があったことなどが苦勞した点である。そのような中、とりわけ力になったのが、地域の公共団体であった。本校は県立高校であるため、愛知県とは連携があるが、地域の公共団体とはあまり交流がなかったが、新たなネットワークができた。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>防災教育を継続実践していくと、ネットワークが広がり、徐々に大きな活動が可能になっていく。しかし、活動が大きくなり、関わる人や団体が増えるほど、準備や調整に時間がかかるようになる。そこで、取り組みによって、チーフになる人を変えて、得意分野で力を発揮してもらうようにし、準備活動を分担した。得意分野に関しては、ある程度その人にまかせることによって、任された人もやる気を出して、取り組めたように思われる。</p> <p>また、必要な材料も係で分担して購入してもらうようにした。ただ、予算があらかじめ決まっているため、購入予定物品の金額は、購入前に概ね聞いておくようにした。材料の購入は全て、いったん立て替えであるため、一時的な個人負担が大きかった。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>実践の取り組みは、全て生徒が中心になって行った。そのため、授業を利用した取り組みでは、時間が確保できず、時間不足との戦いであった。良いものを作ろうとするほど時間がかかり、居残り作業等もおこなった。</p> <p>また、今回の川のクリーンウォーキングでは、他の複数の団体と行ったため、休日活動となり、ボランティア生徒や引率教員を集めるのが大変であった。同様に、「にっしん市民まつり」等も休日実施であり、まさに教員も生徒も休日返上での取り組みが多かった。</p>

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> 日進市立三本木保育園 日進市立東小学校 日進市立西小学校 インターナショナルスクール “I C a n” 名古屋商科大学ボランティアサークル “L o v e にっしん” 日進市教育委員会 愛知県立日進高等学校同窓会 	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居読み聞かせ 紙芝居読み聞かせ 田植え・稲刈り体験 田植え・稲刈り体験 川のクリーンウォーキング 読み聞かせ、田植え・稲刈り 2/26 生徒交通費 横断幕作成
保護者・ P T Aの組織	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県立日進高等学校P T A 愛知県立日進高等学校保護者 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭ジオラマ展示 文化祭ジオラマ展示
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> 三ヶ峯住宅自治会 ひだまりの会 三ヶ峯住宅老人会 	<ul style="list-style-type: none"> 洪水ハザードワークショップ 防災募金 洪水ハザードワークショップ 洪水ハザードワークショップ
国・地方公共団体・ 公共施設	<ul style="list-style-type: none"> 日進市役所防災室 日進市役所産業振興課 尾三消防署 岐阜県可児市役所防災安全課 	<ul style="list-style-type: none"> ジオラマ制作 にっしん市民まつり ジオラマ展示 にっしん市民まつり ジオラマ展示 川のクリーンウォーキング 洪水救急法 防災募金
企業・ 産業関連の組合等	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋鉄道 ライオンズクラブ 毎日新聞社 	<ul style="list-style-type: none"> 防災募金 川のクリーンウォーキング 子ども防災交流会

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

<p>ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人あいち防災リーダー会 ・ 三本木川を守る会 ・ 源流の会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水ハザードワークシ ョップ ・ 川のクリーンウォーキ ング ・ 川のクリーンウォーキ ング ・ 洪水講話
<p>職業、職能団体・ 学術組織、学会等</p>		

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>洪水ハザードジオラマ作成では、地域の地形や浸水想定地区、危険箇所等を学ぶことができた。さらに、「にしん市民まつり」で、ジオラマを展示することによって、多くの市民に身近な洪水に関心を持ってもらうと共に、ジオラマ解説を通して交流することができた。また、洪水ハザードワークショップでは、地域住民と共にD I G（地図上避難訓練）やパソコンによるバーチャル地震体験などを行うことにより、一層の災害への危機意識や地域住民との連帯感が生まれた。</p> <p>川のクリーンウォーキングでは、洪水予防の学びに加え、川を守るボランティア団体との交流を深めることができた。今回、洪水ハザードに取り組むにあたり、土のうの妖精「洪水ミハルちゃん」という、防災教育ゆるキャラを制作した。ミハルちゃんは、校内のみならず、地域にも積極的に出かけていき人気者となった。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>今回は、洪水防災の取り組みであったが、過去5年間地震防災に取り組んできたため、各方面から地震防災の取り組みへの期待の声を数多くいただき、途中で地震防災も取り入れたりした。</p> <p>今後は、地震・洪水の両方に取り組んでいければと考えている。そのためには、防災教育に対する、校内組織の構築や資金の確保等が課題となるであろう。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>6年間の防災教育の取り組みにより、地域からの本校に対する防災への期待は大きいと自負している。今後は、防災教育が学校の中心的取り組みとなるよう、校内組織のより一層の連携の強化や生徒委員会の充実等をさらに進めていきたい。また本校は、防災を怖い・不安なものから、楽しみながら行うもの、「防災楽習」という姿勢で取り組んできたため、これからも新たなアイデアや工夫を凝らした防災教育を心がけていきたいと考えている。</p>

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ①

本校が6年間の防災教育で得られた知見は、(1) 防災知識やスキルの向上：防災調査学習や防災教材の制作、講演会やワークショップへの参加によって防災知識やスキルが向上した。(2) 地域との信頼関係の確立：出前防災教育を実践したり、毎年開催する防災イベントが好評で、地域住民から避難所となっている本校へ寄せる信頼の手応えを感じた。(3) 自己肯定感の高揚：防災教育を実践することで、感謝の言葉をいただいたり、マスメディアに取り上げられることによって、生徒は自分たちでも地域に役立つことを実感し、自己肯定感が高まった。そのことにより、防災教育以外のことにも、自ら進んで取り組む生徒が増えた。(4) コミュニケーション能力の向上：防災教育に取り組むようになって、地域住民から「生徒が元気よく挨拶してくれる」「道の掃除を手伝ってくれた」等の電話が学校にかかるようになった。また、年下の子どもたちに、上手に対応できるようになった。(5) 本校のイメージの向上：本校は、かつて荒れた学校のイメージが定着し、入学者の定員割れが続いていたが、2年前から解消されている。本校防災教育の実践が、報道等によって紹介され、本校の教育活動が少しずつ地域に理解されてきたことも、このような改善に結びついていると考えている。

本校の実践する保育園や小学校等の異年齢間防災教育は、生徒がリーダー役になり、「人に教える」「人に伝える」といった社会貢献活動の手法をとってきた。高校生という年齢から、自分の知識を伝える機会や、地域へ情報発信の場を設けてリーダー的な立場に立たせることは、防災教育に有効なアプローチであると考えている。他方、ボランティア活動として、水害防止のための「クリーンウォーキング」や「防災ミュージカル」なども実践してきた。このように、高校生が自律的かつ自立的な行動をとるには、科学的な災害の認識と、災害への備えをおこなう心理的動機づけ及び習慣づけを学校が行っていく必要がある。本実践においての心理的動機づけとしては、東海・東南海地震襲来への不安、習慣づけとしては、長期的には、実践の継続による度重なる防災への取組が挙げられるが、できるだけ多くの生徒に、日常的に防災・減災を心がけるようになって欲しいと願っている。日常的にどのように行うかはこれからの課題である。

今後も、生徒が防災リーダーとなり、地域へ防災を発信しつつ、なおかつ生存者から支援者となる、主体性のある防災教育を発展させていきたいと考える。それは、いざとなったら自分の力で事態を切り抜ける意欲と知恵をもつ生徒の育成、ひいては、「生きる力」をはぐくむ防災教育への発展に繋がると考えられるからである。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ②



H22. 11. 14 (日) につしん市民まつり



H23. 1. 8 : 子ども防災交流会参加



土のうの妖精「洪水ミハルちゃん」3D

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ③



H23. 1. 8 : 「ぼうさい甲子園」表彰式・発表会



土のうの妖精「洪水ミハルちゃん」2D